

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	救急事案(加害)での傷病者と加害者に関する情報不足による二次災害の危険性があった事案
3. 体験した事例の中心的要素	「19歳の男性が殴られて負傷」などの通報。安全確保のため警察官の到着を待つから現場到着する予定とし、現場付近まで緊急走行したが、指令場所から約300m手前的大通りで傷病者と通報者が救急車を誘導していた。付近に加害者らしき人はいなかったため接触し、状況を聴取。加害者は離れた場所にいると聴取したため、現在地は安全と判断し停車場所で傷病者を車内収容、観察していた。その約2分後、「私は救急車内にいる人の兄弟だ、乗せてくれ」と機関員が男性から声をかけられた。「しばらくお待ちください」と返答し、内部から救急車の施錠を実施した。通報者に確認したところ、声をかけてきた男性は兄弟であるが、加害者だとのことで、容易に救急車内へ誘導していたら二次災害が起きる危険性があったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・警察が到着する前に付近まで近づいたこと。 ・傷病者と通報者が現場から離れているという情報を聴取できなかったこと。 ・傷病者と通報者が焦っている状態で、加害者に関する的確な情報を聴取できなかったこと。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等)
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和1年9月8日 午後10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外: 救急現場(実際の発生場所より約300m離れた大通りの歩道)
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他: 加害者が暴行する恐れ
7. 事例体験時の活動	救急現場活動初期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	車両への収容
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[3]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[48]歳、勤続年数[29]年、現場経験年数[28]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[30]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[5]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	安全管理のため、警察官の到着を待つ予定とした。	
経過2	当事者A・B・C	傷病者に誘導され、現場手前で車両部署した。	
経過3	当事者A	加害者に声をかけられ救急車のドアを施錠した。	
経過4	当事者A・B・C	加害者が離れたことを確認後、現場離脱した。	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた 避難退避がうまくいった たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

焦っている状態の傷病者からの的確な情報を得ることができず、二次災害の可能性を早期に把握できなかった。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--